

検索



体の部位から探す

- 髪
- 目
- 肌
- 歯と口
- 喉
- 胃腸
- 骨と関節
- 尿路
- 血管
- 心臓
- 臀部と腰
- 腎臓

症状から探す

- 老化と肌の問題
- AGA/FAGA
- ストレス管理（気分とエネルギー）
- 免疫力とアレルギー
- 体重管理
- 血圧
- 消化器系の問題
- 骨と関節
- 栄養とライフスタイル
- 性感染症
- 機能障害（EDと早漏）

ニュース

- 

海外から届くまでの流れ：輸送ルートと手続きの完全解説
- 

品質を支える製造現場のリアル：安全・高精度の薬づくりを徹底解説
- 

薬を安全に使うための完全ガイド：副作用対応・保存管理・海外製薬の流れ

最近の投稿

- 

5月 05, 2026
虚血とは？原因・症状・治療をわかりやすく解説
- 

5月 05, 2026
髪にいい食べ物まとめ | 薄毛・抜け毛対策に役立つ食事ガイド
- 

5月 04, 2026
首のニキビはなぜできる？原因・対策・スキンケアのポイント
- 

5月 03, 2026
血圧はどこから高血圧？正常値と基準、年齢別の目安を解説
- 

5月 03, 2026
膀胱炎は市販薬で治療できる？知っておきたいポイント

このブログは役に立ちましたか？

あなたの名前

あなたのメールアドレス

主題

あなたのメッセージ (オプション)

提出する

戻る



日本でコンサータが 個人輸入できない理由

承認済み ADHD治療薬の 選択肢を紹介

心臓

日本でコンサータを個人輸入できない理由と、承認されている
ADHD治療薬の選択肢について

1月 13, 2026 - By Dr. Ammu Muraaleedharan

コンサータは世界的に広く処方されているADHD関連の薬ですが、日本では一部の成分や刺激薬に対する規制が非常に厳しく、個人輸入は認められていません。このため、こうした薬を携帯している外国人旅行者にとって、日本の法律は非常に分かりにくいものになっています。本記事では、なぜコンサータを日本に個人用として持ち込むことができないのか、また日本国内で利用できる代替薬にはどのようなものがあるのかを解説します。

目次 (もくじ)

- コンサータとは何か
- なぜコンサータは日本に個人用として輸入できないのか
- 日本で利用できるADHD治療薬の選択肢
- コンサータの代替薬は日本へ個人用として輸入できるのか
- まとめ
- よくある質問
- 免責事項
- 参考文献

コンサータとは何か

コンサータは中枢神経刺激薬の一種で、ADHD（注意欠如・多動症）の診断を受けた人に処方されることが多い薬です。一般的に子どもと大人の両方に処方される処方箋医薬品に分類されています。

有害な依存性や乱用・依存の可能性があるため、メチルフェニデートは多くの国で当局による規制対象となっています。日本では、コンサータは麻薬及び向精神薬取締法の枠組みの下で厳しく規制されており、製造、処方、所持、輸入には詳細な法的要件が設けられています。このため、許可のない使用や個人輸入は日本の法律で認められていません。

あわせて読みたい：[ネットの薬屋さん](#)

なぜコンサータは日本に個人用として輸入できないのか

コンサータはADHDと診断された人が使用する薬ですが、日本では個人輸入が認められていません。これは、コンサータが向精神薬に該当し、麻薬及び向精神薬取締法に基づき厳格に管理されているためです。

向精神薬は強い依存性を有し乱用されやすい薬でもあるため、医師の処方のもとでのみ使用が許可されています。しかし、一部の人は自己使用目的で海外からこの薬を輸入しようとする 경우가あり、これは法律違反となり、起訴や懲役を含む刑事罰の対象となる可能性があります。

したがって、コンサータに関わるリスクは、健康や安全面だけでなく、重大な法的リスクも含んでいます。この薬を輸入することは推奨されず、日本にこうした薬を持ち込もうとする前には、十分な注意が必要です。

日本で利用できるADHD治療薬の選択肢

コンサータの日本への輸入は認められていませんが、日本国内では一定の条件のもとで使用が認められているADHD治療薬があります。

- ストラテラ
ストラテラは、コンサータと異なり非刺激薬に分類されるADHD治療薬で、ノルアドレナリンの再取り込みを選択的に阻害する作用を持つ薬として日本で承認されています。刺激薬に該当しないため、規制上のハードルは比較的低く、適切な書類が整っていれば処方や持ち込みに関する手続きも、刺激薬ほど厳格ではありません。
- インチュニブ
インチュニブも、日本で使用できる非刺激薬のADHD治療薬です。主に小児への使用が多い薬ですが、専門医の管理のもとであれば成人に対して使用が検討される場合もあります。
- その他の非刺激薬を用いたアプローチ
刺激薬を使用できない人に対しては、行動療法やカウンセリング、生活習慣の調整、非刺激薬の併用などを組み合わせた、多面的な治療プランが医学的に適切とされることがあります。

コンサータの代替薬は日本へ個人用として輸入できるのか

ADHD治療薬を個人使用目的で日本に持ち込む場合も、その依存性の観点から厳しい条件が定められています。

非刺激薬（アトモキセチンなど）の場合は、通常、処方箋があれば1か月分程度までは携行が可能とされ、それ以上の量を持ち込む場合には「薬監証明」の取得が必要となる場合があります。

一方、刺激薬に分類される薬（一定量を超えるメチルフェニデートなど）については、個人使用の範囲を超える量を持ち込む場合、事前に麻薬取締部からの許可や免許が必要です。多量を輸入しようとしたり、郵送などで送付することは認められていません。

そのため、メチルフェニデート系の薬であっても、適切な書類がある場合に限って、入国時に少量を携行できる余地はありますが、正当な許可なくADHD刺激薬をまとまった量で輸入することは、日本の規制薬物法制において違法行為となります。

まとめ

コンサータは、日本における麻薬、覚醒剤、向精神薬に関する厳格な規制のため、個人使用目的で自由に輸入することはできません。他の多くの国で標準的に用いられる薬であっても、日本国内では刺激薬や規制物質として、独自の法制度に従う必要があります。

日本でADHD治療を必要とする人は、日本の医師免許を有する医師の診察を受け、国内で合法的に処方される薬を利用することが求められます。ストラテラなどの承認薬や、日本国内で適切に処方されるコンサータなどを、医療機関の管理のもとで使用することが重要です。

よくある質問

Q1. コンサータは日本で合法ですか。

A1. コンサータ（メチルフェニデート）は日本でもADHD治療薬として承認されていますが、厳格に管理されており、日本の医師免許を持つ医師による処方が必要です。

Q2. コンサータを郵送で日本に輸入できますか。

A2. いいえ。コンサータのような刺激薬を、事前の許可なく郵送で送ったり、多量に輸入したりすることは禁じられています。

Q3. 日本に個人用のADHD薬を持ち込むことはできますか。

A3. 非刺激薬であれば、適切な書類があれば少量の携行が認められる場合があります。刺激薬については、規制薬物としての許可や、関連法令の順守が必要です。

Q4. 日本ではADHD治療としてどのような選択肢がありますか。

A4. 日本では、医師の管理のもとでのコンサータ処方、アトモキセチン（ストラテラ）、インチュニブなどの非刺激薬を含むADHD治療が提供されています。

免責事項

本ウェブサイトで提供している情報は、事実やエビデンスに基づいた教育的・情報提供のみを目的としており、その内容の正確性を保証するものではありません。情報は執筆時点のものであり、公開後の状況変化により変更される場合があります。本記事の情報を、医療専門職による助言、診断、治療の代わりとして用いないでください。また、本ウェブサイトの利用により生じた一切の結果について、当方は責任を負いません。

参考文献

- Medications For Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder In Japan. PMC – National Center For Biotechnology Information. Published June 27, 2021. <https://Pmc.Ncbi.Nlm.Nih.Gov/Articles/PMC8411317/>
- Risk Factors For Low Adherence To Methylphenidate In Japanese Children And Adolescents With Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder. Nature Scientific Reports. Published January 17, 2021. <https://www.nature.com/articles/S41598-021-81416-Z>
- Practical Clinical Guidelines With Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder Approaches For Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder In Asia. Frontiers In Pharmacology. Published December 6, 2023. <https://Pmc.Ncbi.Nlm.Nih.Gov/Articles/PMC10932761/>
- Drug Prescription For Attention Deficit Hyperactivity Disorder In Pediatric Outpatients In Japan. Science Direct. Published October 24, 2012. <https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S1876201820306250>



もつ鍋とホルモン鍋の違いとは？

4月 28, 2026



コレステロールの薬を飲み続けるとうなる？効果とやめどき

4月 18, 2026



正しい降圧薬の選び方と安全な使い方

3月 30, 2026

症状

- 老化と肌の問題
- AGA/FAGA
- ストレス管理（気分とエネルギー）
- 免疫力とアレルギー
- 体重管理
- 血圧
- 消化器系の問題
- 骨と関節
- 栄養とライフスタイル
- 性感染症

クリックリンク

- HOME
- ニュース
- 閲覧履歴
- お気に入り
- カート
- お知らせ
- 新規登録
- ショップに戻る

注文方法



